

労働安全衛生研修会（危険予知訓練（KYT））の開催

西日本総合コンサルタント（株）

1. 開催目的

当社の職場（社屋・現場）での事故・現場災害ゼロの取り組みのため、全社員を対象に「労働安全衛生研修会（危険予知訓練・KYT）」を中央労働災害防止協会・九州安全衛生サービスセンターから講師を派遣していただき当社大会議室で開催した。

期日：令和2年1月28日

場所：西日本総合コンサルタント（株） 大会議室

演題：危険予知訓練（KYT）について

講師：中央労働災害防止協会・九州安全衛生サービスセンター
安全管理士、衛生管理士 石橋一由氏

参加者：社員・役員 44名



講師：石橋一由氏

2. 研修会・概要

今回は、「ゼロ災運動と危険予知（KY）活動」についての講話・ビデオと実技訓練を行った。

「ゼロ災運動」については、「基本3原則（ゼロの原則、先取りの原則、参加の原則）」と、推進3本柱（トップの姿勢、ライン化の徹底、職場自主活動の活発化）が重要」と説明され、人間尊重の理念、全員参加で、安全と健康を先取りし、生き生きとした職場風土づくりを目指すことの大切さについて学んだ。

「危険予知訓練」については、危険を危険として気づく感受性をミーティングで鋭くし、危険に対する情報を共有し合い、それをミーティングで解決していく中で問題解決能力を向上させ、

作業の要所所で指差し呼称を行うことにより集中力を高め、チームワークで実践への意欲を強める手法であることを学んだ。

また、講師から指差し呼称は「全員で目標に向かって気合を一致させチームの一体感、連帯感を高める狙いがあり、リーダーの「かまえて」、メンバーの「ヨシ」が基本形」と説明され、全員で指差し呼称を何回も繰り返した。



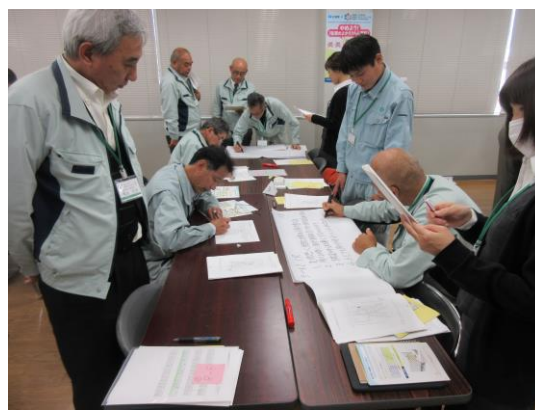
開会あいさつ：福島裕充社長



指差し呼称・KYT 訓練（かまえて、 ヨシ）



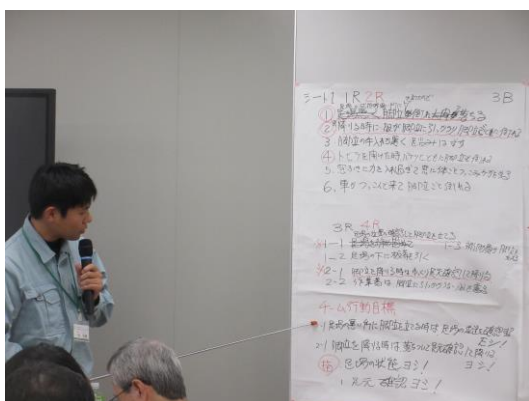
研修会のように



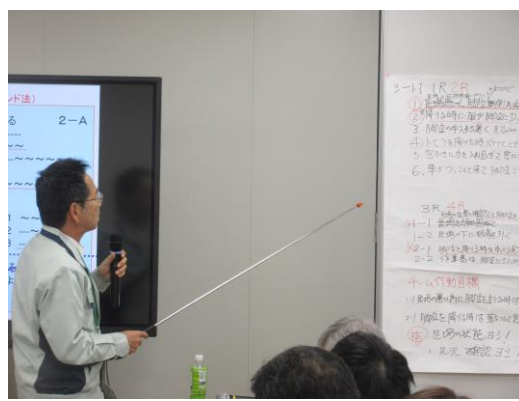
課題に対するグループ討議

ビデオ「最新のKYTの進め方」では、具体的な指差し呼称、タッチ・アンド・コールの演練を行ない、職場の一体感・連帯感を盛り上げていくことの重要性を学んだ。KYT基礎4ラウンド法の実技訓練では「脚立まどふき」作業を題材に5～6名にグループ分けし、リーダー、書記、レポート係などに分担して行なった。

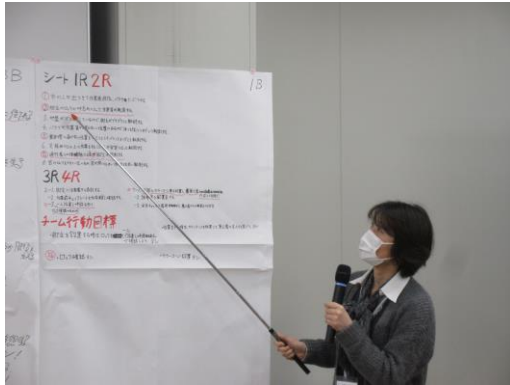
まず、①現状把握・どんな危険がひそんでいるか。②本質追及・これが危険のポイントだ。③対策樹立・あなたならどうする。④目標設定・私たちはこうするという4つのラウンドを段階的に進めていった。その後、確認項目を選定し、指差し呼称項目を設定し、グループごとにタッチ・アンド・コールでKYTを締めくくる工程の実地訓練を参加者は熱心に取り組んだ。



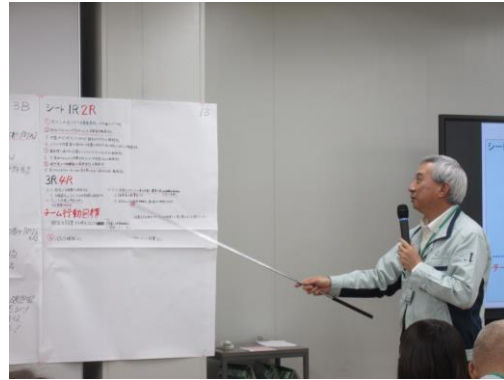
グループ代表発表



発表に対するコメント



グループ代表発表



発表に対するコメント



グループ討議発表に対する講師の講評

参加者からは、「現場KY、指差し呼称、タッチ・アンド・コールについては、一応の知識があり、現場で行っていたが、今回、具体的な研修を受けて、現場災害ゼロを目指すためにKY活動の基本を学び直すことができた。

現場KY・指差し呼称を徹底して、現場災害ゼロを目指したい」といった声が聞かれKY活動を再確認されていた。

訓練後に、同社の大串正専務は、「今回、初めて全社員によるKYT・危険予知訓練ができた。現場だけでなく、職場・社屋内でも事故は発生する。特に、現場では、現場状況、作業方法・内容等を十分理解して、KY活動行い、事故のないように作業してほしい。ご安全に！」と参加者に呼び掛けた。

毎朝、KYT指差し呼称を実践して、ゼロ災害を目指していきたいと思います。ご安全に！！



講師に対する御礼の言葉（大串専務）

ゼロ災害へ・・・全員参加 標語

- ・決めたことみんなが実行 ゼロ災職場 ヨシ
- ・指先にところをこめて 指差し呼称 ヨシ
- ・危険を予知して ゼロ災運転 ヨシ
- ・24時間トータル ゼロ災活動 ヨシ
- ・一人ひとり カケガエノナイひと ヨシ
- ・何がなんでも ゼロ災害 ヨシ
- ・今日もゼロ災 言い訳なし ヨシ
- ・ゼロ災でいこう ヨシ